



地球にも自分にもより良い、 捨てない生活を始めてみませんか？

“コンポスト”を活用して生ごみを減らし、環境に優しい生活を送る後藤さん。バッグ型のコンポストについての講座を受講しアドバイザーの資格を取得した後、興味がある方に魅力や価値を伝えてコンポストを始めるきっかけづくりをしています。その出会いはコロナ禍だったと言います。人とのつながりが絶たれ、巣ごもり需要が高まっていた時期に、可愛い見た目で通気性に優れたフェルトのバッグを使ったコンポストを知りました。家庭から出る生ごみを、基材を入れたバックの中にまぜ入れ堆肥を作ります。「気軽にできるところや日頃から土に

触れあえるのが自分に合っていたんです。だから楽しくて今まで続いています」と後藤さんは嬉しそうに語ります。探り探りで始めた活動も、今年で二年になり、都市でできるコンポストの存在



手軽に始められてベランダにもおしゃれなコンポスト

と理解を広めるために、様々な場所で講座も行っています。「虫が嫌いだと言う人もいますが、実はその虫が、ごみの分解を手伝ってくれることをまず知ってほしいんです」と言います。コンポストを始めて知ったことを多くの人に知ってもらい、身近な人と環境について考え、さらに人とのつながりを得られる機会になります。

また、趣味と同じ感覚で行えるこの活動を始めてから、後藤さんは「こっちのほうが楽なんだ」と、気づきました。毎日出る生ごみと不燃ごみを分けるだけで、嫌な臭いやごみの日を気にして、「溜めない様にしないと」と焦る気持ちからさえも解放されたそうです。

他にも変化はありました。例えば日頃使う洗剤や、昨今問題になっているプラごみなど。生ごみが無くなったことで、ごみの削減や環境にも意識が向くようになったと言います。特に子育てを通して、自然と「私たちが住



ご自宅から持ってきたコンポストを紹介する後藤さん

む地球の未来」が気になってくるようになった、とのこと。

子育て世代は生ごみの排出が多い世代ですが、環境問題に関心を持っている人が多い世代でもあります。将来はそうした人たちが集まって、ちょっと一息ついたりつながったりできるような居場所、人とつながることで可能性も広がり、自分自身が豊かになるようなコミュニティガーデンのようなものを狛江に作れたらと考えてらっしゃるそうです。

半径2kmは地域で起きていることを「自分事」として捉えられる範囲だと、後藤さんは教えてくれました。「何がきっかけでも良いと思いますが、その一つとしてコンポストは楽しみながら手軽にできるのが良いところです。楽しく続けられ、地球にも自分にもより良い、捨てない生活を始めてみませんか？」後藤さんは素敵な提案をしてくれました。（取材記事：こまえくぼ広報部会 有本）



お問い合わせ先
トウキョウツチアソビ



instagram
tokyo_tsuchiasobi

